

## 2 成果指標評価表

### 環境の柱 1 環境教育

環境分野 1	環境教育	環境教育を推進する																						
<b>成果指標 1 エコスクールの参加者数（人）</b>																								
<table border="1"> <caption>エコスクールの参加者数（人）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加者数（人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>971</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>857</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>1,139</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>1,371</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H32</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H33</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H34</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H35</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			年度	参加者数（人）	H24	971	H27	857	H28	1,139	H29	1,371	H30		H31		H32		H33		H34		H35	
年度	参加者数（人）																							
H24	971																							
H27	857																							
H28	1,139																							
H29	1,371																							
H30																								
H31																								
H32																								
H33																								
H34																								
H35																								
<b>成果指標の分析</b>		<b>目指す方向性</b>																						
<p>H29年度は講座が順調に開催され、参加者が前年度に比べ232人増加となった。より一層の参加者増を目指すため、魅力ある講座内容を検討する。 応募超過の講座もあったため、募集人数を検討する。</p>																								

<b>成果指標 2 生活情報アプリの累計ダウンロード数（件）</b>																								
<table border="1"> <caption>生活情報アプリの累計ダウンロード数（件）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>ダウンロード数（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>2,357</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>4,455</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H32</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H33</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H34</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H35</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			年度	ダウンロード数（件）	H24	0	H27	0	H28	2,357	H29	4,455	H30		H31		H32		H33		H34		H35	
年度	ダウンロード数（件）																							
H24	0																							
H27	0																							
H28	2,357																							
H29	4,455																							
H30																								
H31																								
H32																								
H33																								
H34																								
H35																								
<b>成果指標の分析</b>		<b>目指す方向性</b>																						
<p>累計ダウンロード数は平成28年度から2,098件増加した。また、平成29年度下半期のダウンロード数は1,343件で、上半期のダウンロード数755件から増加しており、順調といえる。引き続き、イベント等での啓発を行っていく。</p>																								

**【主な事業】**

- ・ エコスクール開催補助事業  
市内や市外でエコスクールを開催するために、エコスクール実行委員会へ補助をした
  - ・ 講座数 24講座
  - ・ 主な講座 東海市自然探検隊、名古屋港の水質を実感しよう
  - ・ 参加者数 1,371人
  - ・ 開催期間 29年5月14日～30年3月1日
  
- ・ 3R活動講座等運営事業(生活情報アプリ配信事業)  
スマートフォンの普及に伴い、市民生活情報をアプリケーションシステム「東海なび」により発信した  
発信情報 イベント情報、ごみに関する情報、避難所情報、公共施設情報等

**【推進委員会の意見】**

エコスクール講座は魅力的になってきていいと思われるが、参加者の一部固定化が見られる。学校と連携し周知に努めさらなる拡大を目指したい。  
生活情報アプリについては、ペーパーレスなどごみの減量にもつながるので利用者を考慮し推進したい。

**【総合的な評価】**

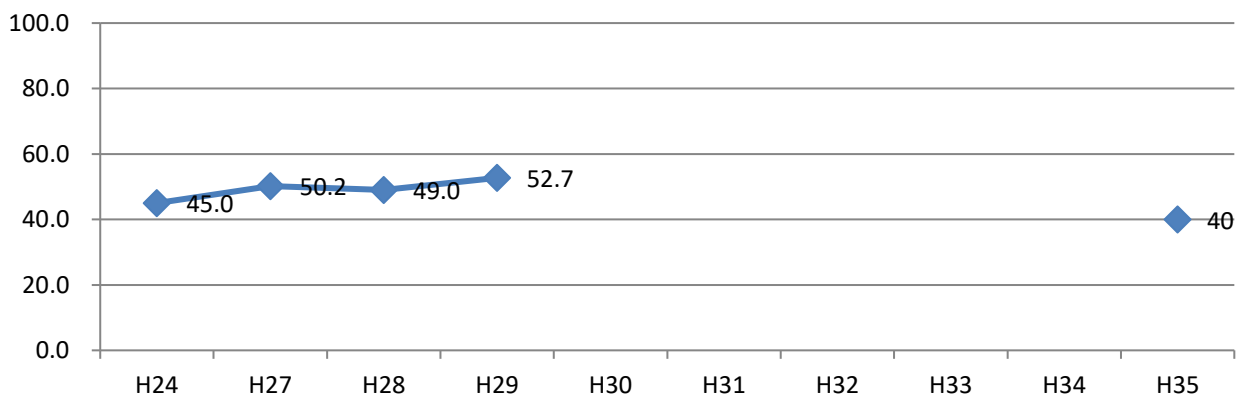
プロジェクトとしては順調に推移していると考えため、継続して事業を推進する。また、さらなる拡大を目指し団体や事業者と連携を図り推進していく。

## 環境の柱 2 環境対策

環境分野 2 大気・はいじん

きれいな空気を守る

### 成果指標3 大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合(%)



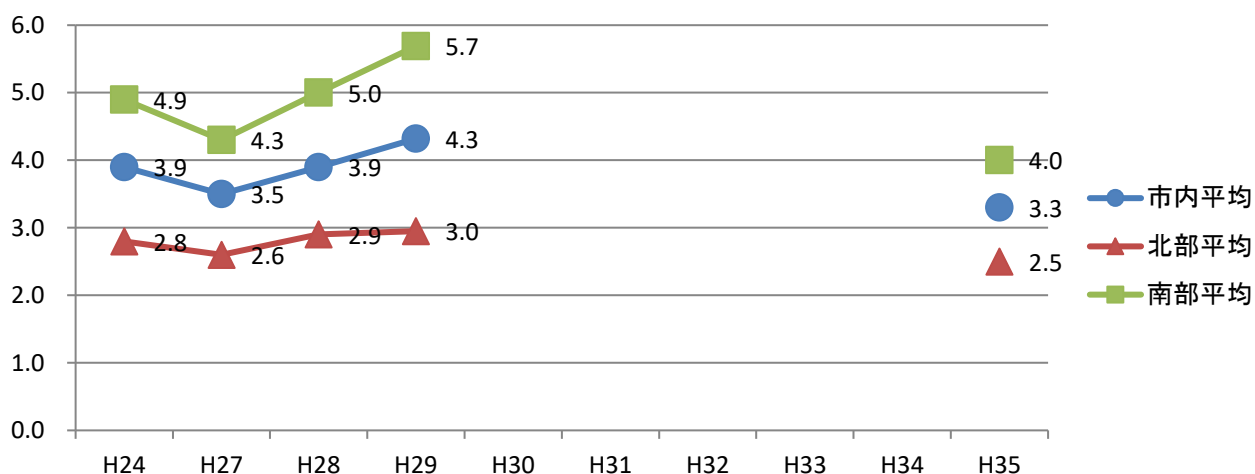
#### 成果指標の分析

前年度と比べ3.7ポイント悪化しており、また、基準値と比べても7.7ポイント悪化しているため、順調ではない。企業の対策は進んでいるものの、効果が実感に結びつかず、特に市南西部の大田、横須賀地区は、支障があると感じている人の割合が高い。

#### 目指す方向性

40%

### 成果指標4 降下ばいじんの量 (t/km<sup>2</sup>・月)



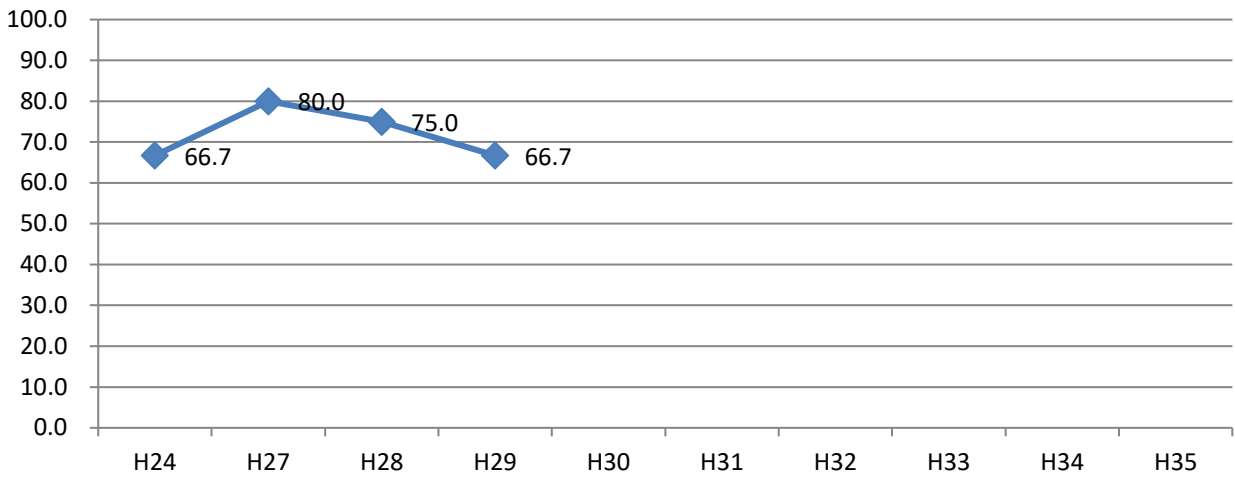
#### 成果指標の分析

前年度と比べ0.4t悪化しており、順調ではない。事業所等の発生源対策は進んでいるものの、気象条件などにより、市南西部では北部に比べて、高い値となっている

#### 目指す方向性

3.3t/km<sup>2</sup>・月(市内)  
2.5t/km<sup>2</sup>・月(北部)  
4.0t/km<sup>2</sup>・月(南部)

### 成果指標5 環境騒音基準値の適合率(%)



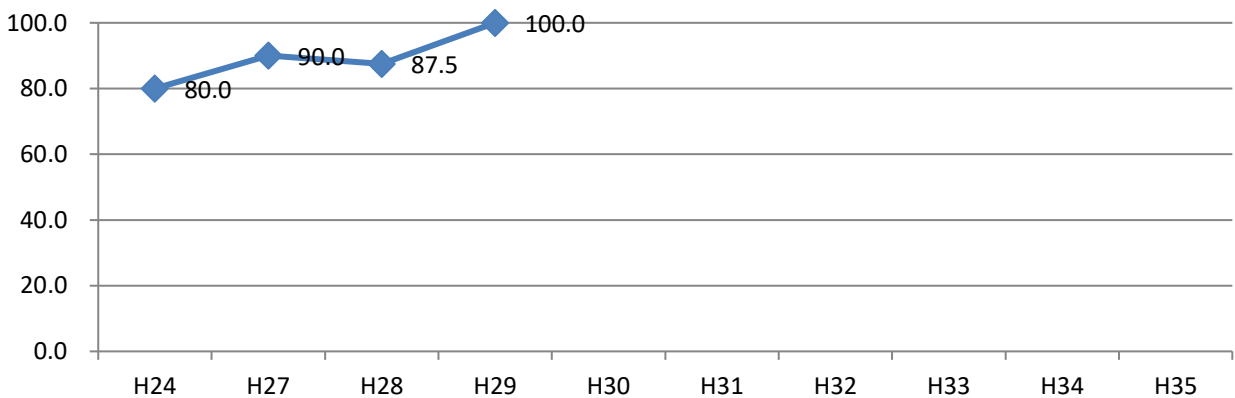
#### 成果指標の分析

前年度に比べ8.3ポイント悪化し、基準値に比べ横ばいとなっており、引続き発生源対策等の進展による環境騒音の軽減を図る必要があると思われる

#### 目指す方向性



### 成果指標6 自動車交通騒音基準値の適合率(%)



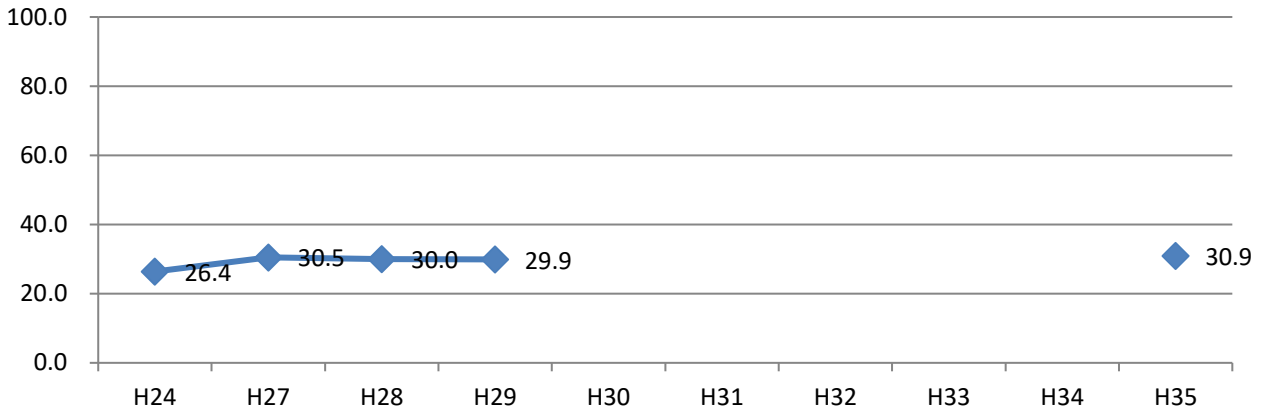
#### 成果指標の分析

前年度と同様、基準値を達成しており、順調に推移していると思われる。

#### 目指す方向性



### 成果指標7 市内の川の水がきれいであると感 じている人の割合(%)



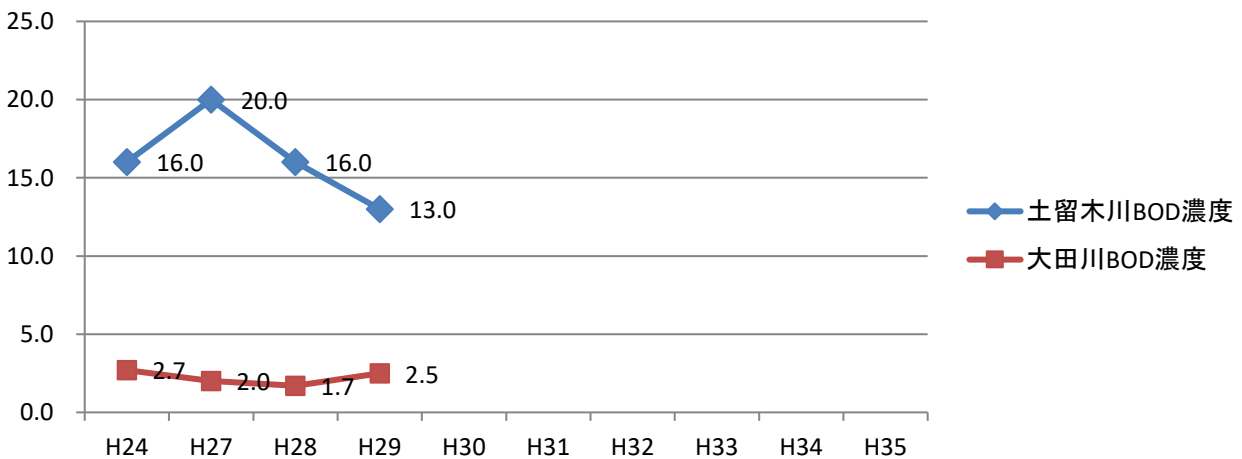
#### 成果指標の分析

対基準値3.4ポイント増加、対前年度0.2ポイント減少し、地区や年齢によってばらつきがあるものの、めざそう値に向け順調に進展している。下水道建設等の環境整備が影響していると考えられる。

#### 目指す方向性

30.9%

### 成果指標8・9 河川のBOD濃度(mg/ℓ)



#### 成果指標の分析

前年度と比べ3ポイント数値が減少し、基準値と比べ3ポイント減少したものの、季節や天候による水質調査への影響もあるため、水質としては横ばいとする。  
前年度と比べ1.1ポイント数値が増加し、基準値と比べ0.2ポイント増加したものの、季節や天候による水質調査への影響もあるため、水質としては横ばいとする。

#### 目指す方向性



**【主な事業】**

・大気分析事業

大気汚染の状況を把握するため、分析をした

- ・分析項目 降下ばいじん、粉じん苦情による金属分析、浮遊粒子状物質中の重金属分析、ダイオキシン類分析、ばい煙分析、硫黄分析

・騒音測定事業

幹線道路近辺に居住する市民に住みよい環境を保全するため、騒音測定をした

- ・自動車騒音の面的評価、道路調査、建物調査、騒音調査、交通量調査

・臭気分析事業

空気のきれいな住環境を維持するため、臭気を測定し、事業者の対策状況を確認した

- ・三点比較式臭袋法(1回4検体)による測定
- ・測定回数 5回

・水質分析事業

住みやすい環境を維持するため、河川、ため池、事業所の水質を分析した

- ・河川(8地点)、ため池(18地点)、工場排水(16地点)の水質分析
- ・井戸水水質検査

**【推進委員会の意見】**

降下ばいじん、騒音について企業と連携し原因解析を行い削減につなげてほしい。

河川については、下水道の整備により改善されると思われるので、計画的に進めてほしい。

**【総合的な評価】**

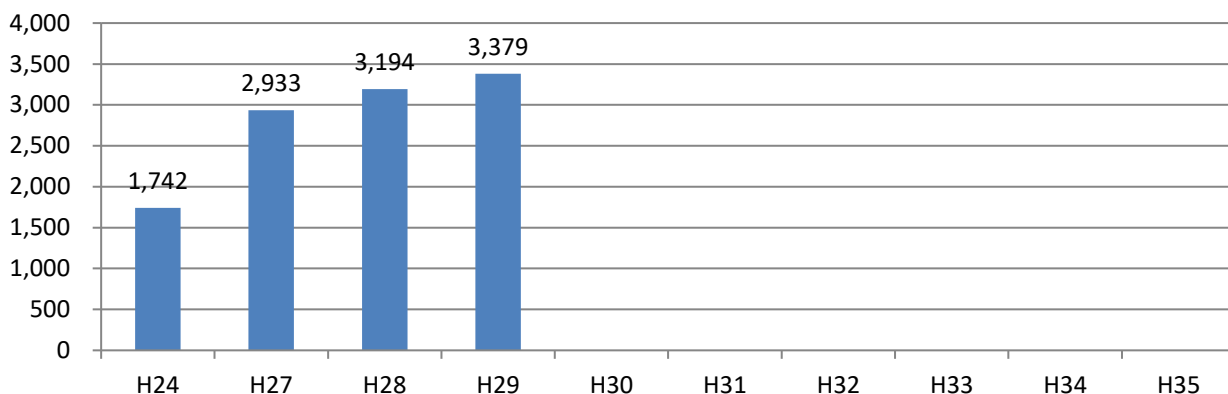
今後も継続して大気の状態を監視すると共に、発生源対策として県と連携し、臨海部企業に対しより一層の降下ばいじん対策の強化について要望していく。

## 環境の柱3 環境保全・再生・創造

環境分野 5 地球温暖化対策

低炭素なまちづくりを目指す

### 成果指標10 太陽光発電システムの累計設置 件数(件)



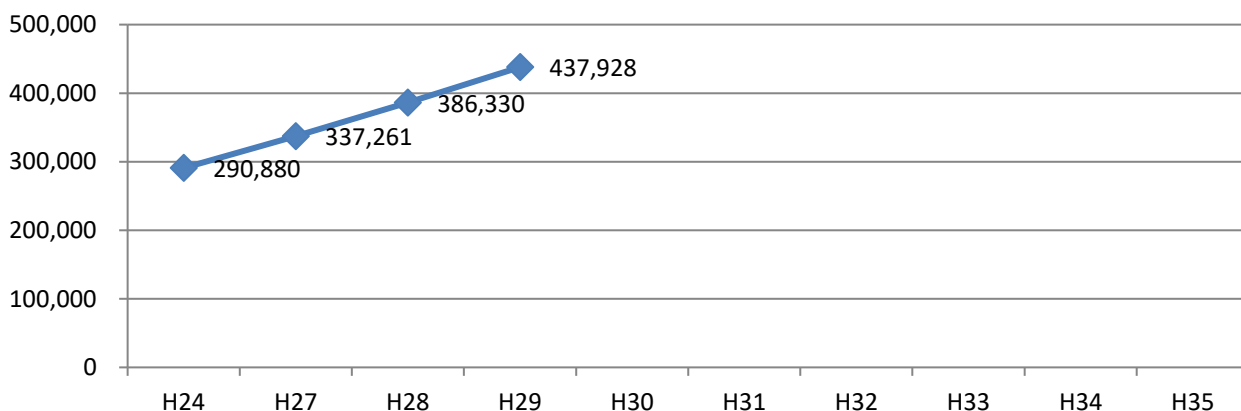
#### 成果指標の分析

累計設置件数は、前年度に比べ185件増加しており、基準値より1,637件も上まっ  
ていることから、非常に順調である。

#### 目指す方向性



### 成果指標11 らんらんバスの年間利用者 (人/年)



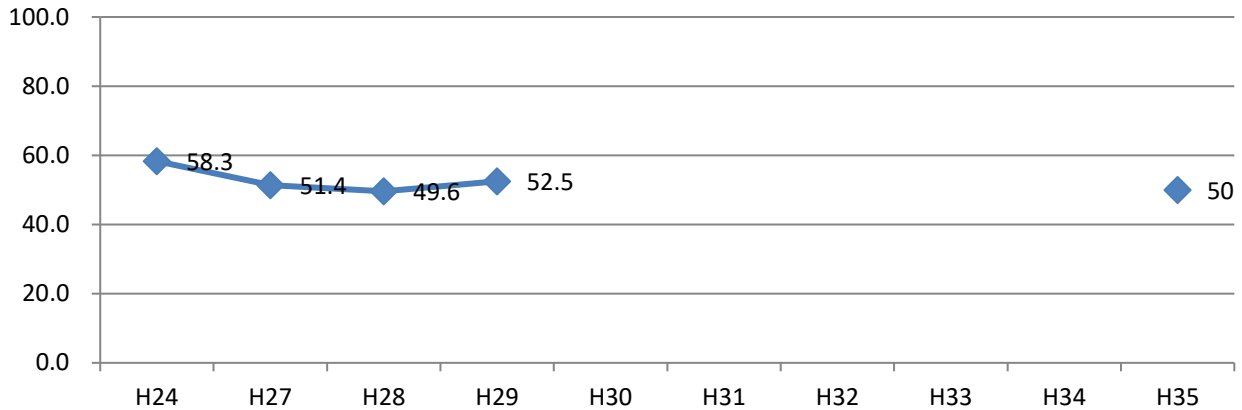
#### 成果指標の分析

平成27年5月に実施したダイヤおよびルートの変更等により利便性が向上したこと、平成28年8月から実施された75歳以上の市民を対象とした運賃無料化により大  
幅な利用者の増加となった。

#### 目指す方向性



### 成果指標12 地域内にポイ捨てが目立つと感じる市民の割合(%)



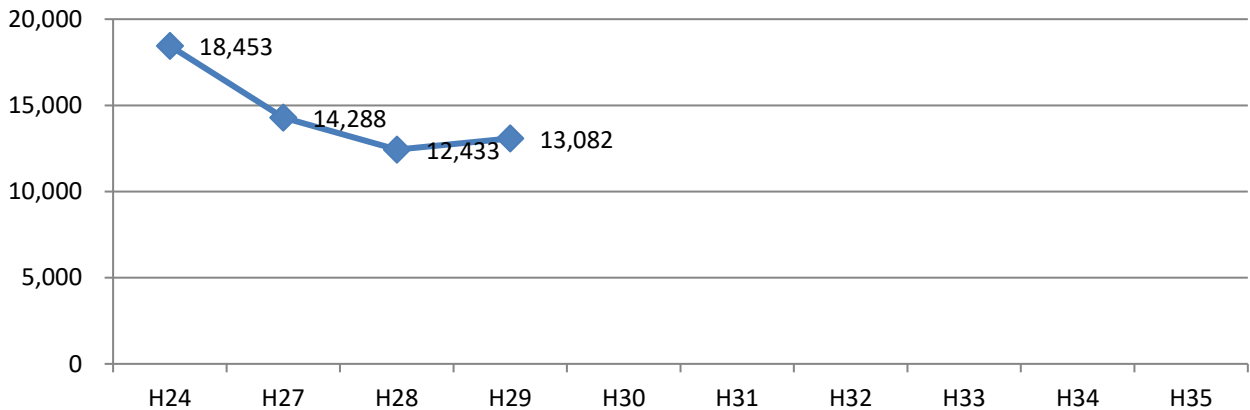
#### 成果指標の分析

前年度と比べ2.9ポイント増えており、ゴミのポイ捨てや不法投棄が増加しているものとする。  
年齢別や地域別などの比較では、特に目立った差異は見られませんでした。

#### 目指す方向性



### 成果指標13 地域の清掃活動に参加した人数(人)



#### 成果指標の分析

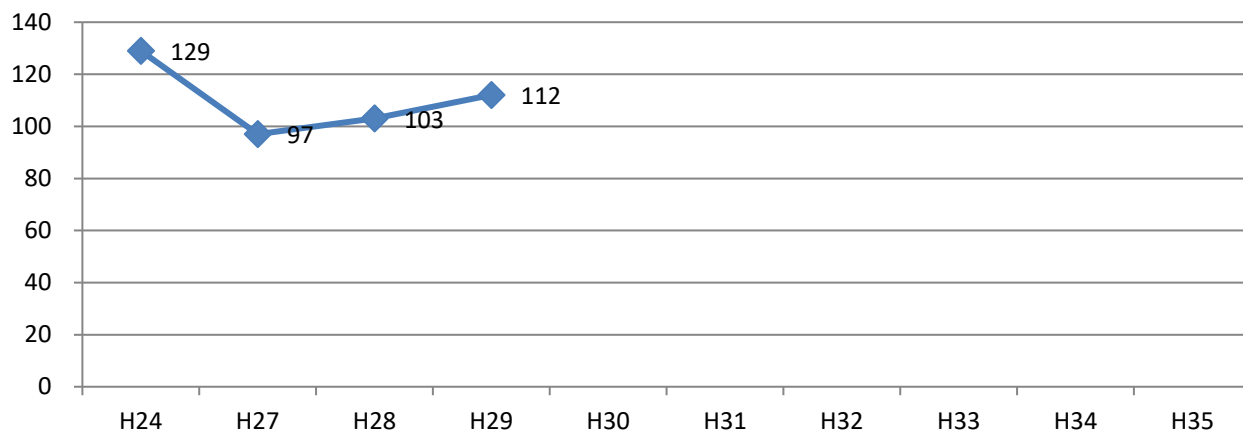
前年度に比べ649人増加傾向である。  
地域清掃への関心が高まったと考えられる。

#### 目指す方向性





### 成果指標 1 4 地域の清掃活動に参加した団体数（団体）



#### 成果指標の分析

前年度に比べ9団体増加傾向である。  
地域清掃への関心が高まったと考えられる。

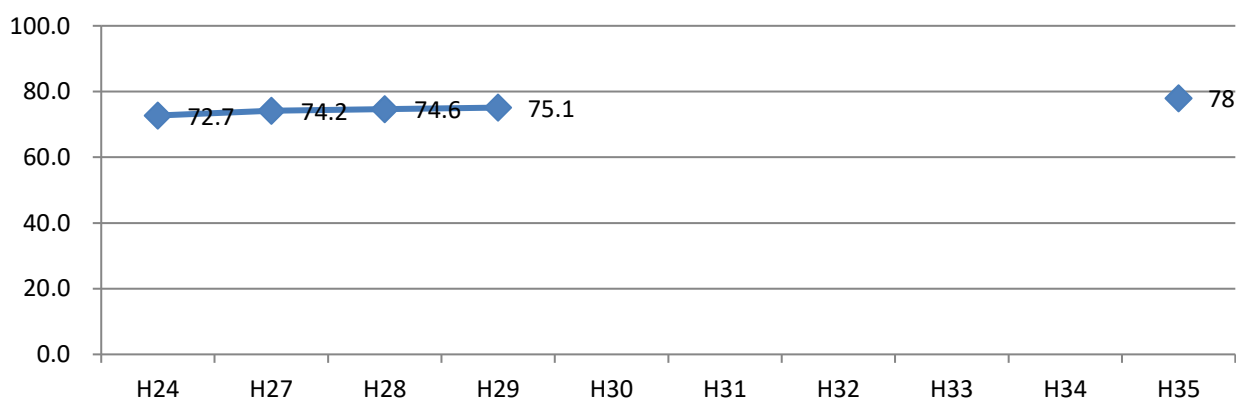
#### 目指す方向性



### 環境分野 7 緑・水・生き物

人と自然が共生できるように、環境保全活動を推進する

### 成果指標15 花や緑が充実していると思う人の割合（%）



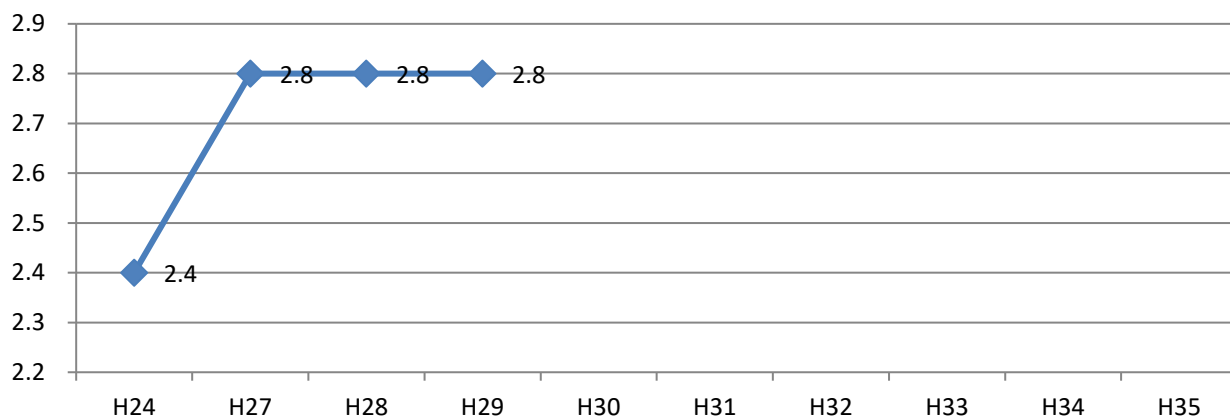
#### 成果指標の分析

前年度と比較して、0.5%の増加となっており、順調である。  
これは、都市公園の整備の進展や、緑地及び街路樹の増加により、公共施設緑地面積が前年度と比較して2.1ha増加したことによるものと考えられる。

#### 目指す方向性

78%

## 成果指標16 東海市の面積に対する都市公園面積の割合(%)



### 成果指標の分析

基準値と比べ0.4ポイント増であり順調である。  
都市公園の整備の進展によるものと考えられる。

### 目指す方向性



### 【主な事業】

- ・ 公共施設緑化事業(公園・緑地生態環境調査事業)
  - 公園・緑地の水辺環境を活用し、多様な生き物と身近にふれあえる環境を創出することによって、心身のリフレッシュや自然環境学習などを行う事ができる場を提供した
  - ・ 場所 市内の公園・緑地
  - ・ 工期 29. 8. 4~30. 3. 30
- ・ 外来種駆除事業
- ・ 太陽光発電システム等設置促進補助事業
  - 住宅用太陽光発電システム及び家庭用燃料電池システムの設置に対して補助した
  - 補助額 太陽光発電システム 1kwあたり2万円(上限8万円)
  - 家庭用燃料電池システム 10万円
- ・ 地域美化推進事業
  - ごみのないまちづくりを目指すため、不法投棄監視パトロール、不法投棄ごみの回収、道路等公共施設の清掃等を実施した。
  - ・ ごみ散乱防止市民行動月間 6月、9月

**【推進委員会の意見】**

太陽光システムは、順調に推移しているが今後の廃棄物の処理も検討していく必要がある。

花と緑については、外来種問題もあり、総合的に検討していきたい。

**【総合的な評価】**

引き続き環境行動を実践できるよう普及啓発に努めると共に、計画的に環境保全活動を推進していく。

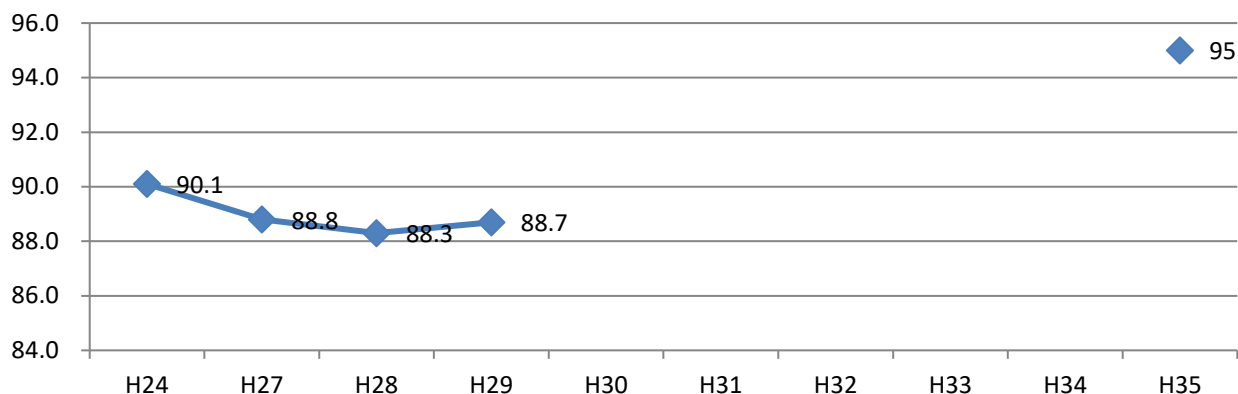
## 環境の柱 4 循環型社会

環境分野 8

3 R活動

ごみ減量と資源化を推進する

### 成果指標17 ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合(%)



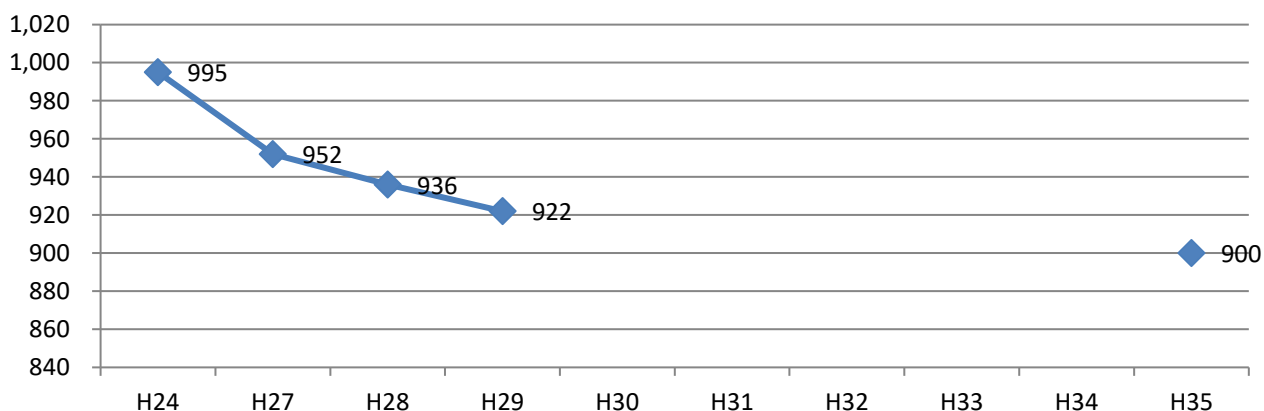
#### 成果指標の分析

指標の推移は、H24の基準値を下回っているものの、過去3か年は、ほぼ横ばいである。  
年齢別では若い層が低く、また、職業別では学生と会社員・公務員が低くなっており、この状態はH24以降続いている。

#### 目指す方向性

95%

### 成果指標18 市民一人当たりのごみの総量(g/人・日)



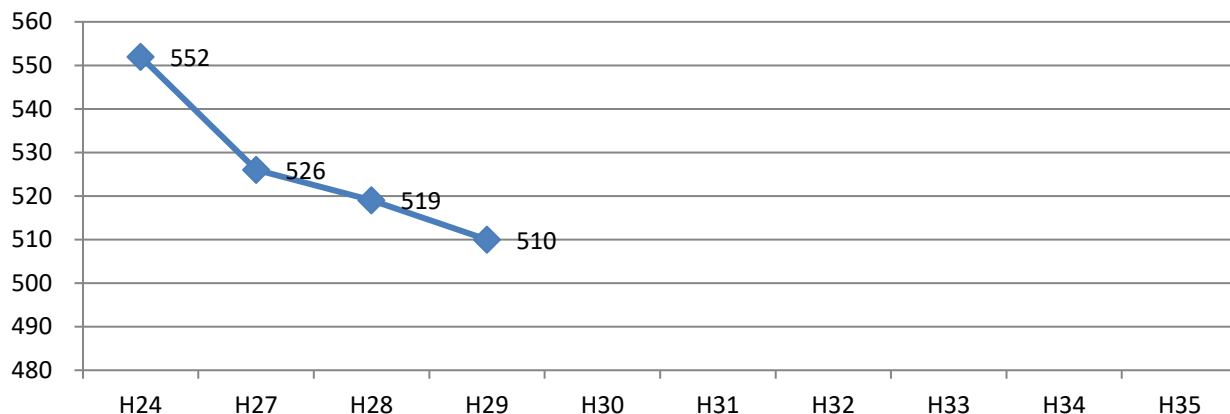
#### 成果指標の分析

一人1日当たりのごみの総量は年々減少し、H24に比べ73g減った。特に家庭系はH24の552gから42g減り510gである。事業系はH24の240gから12g減り228gとなったが、昨年度と変更なかった。指標が順調なのは、家庭の取り組みの効果が大きいと考えられる。

#### 目指す方向性

900g/人・日

## 成果指標19 市民一人当たりの家庭系ごみの排出量(g/人・日)



### 成果指標の分析

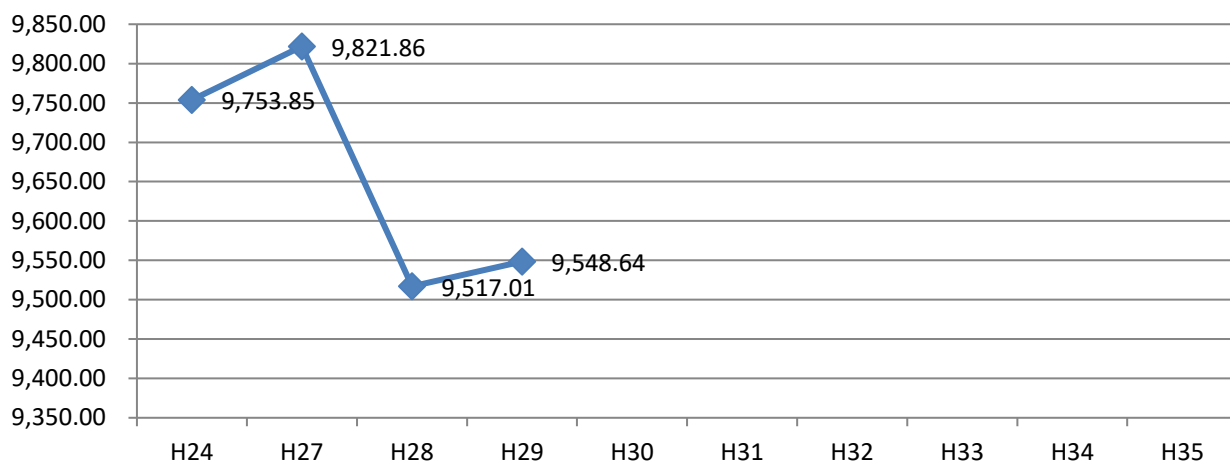
年間の家庭ごみの総搬入量(資源を除く)は毎年減り続けている。H28より9g/人・日改善し、基準値との比較では、42g/人・日改善している。

### 目指す方向性



減らす

## 成果指標20 事業系ごみの総排出量(t)



### 成果指標の分析

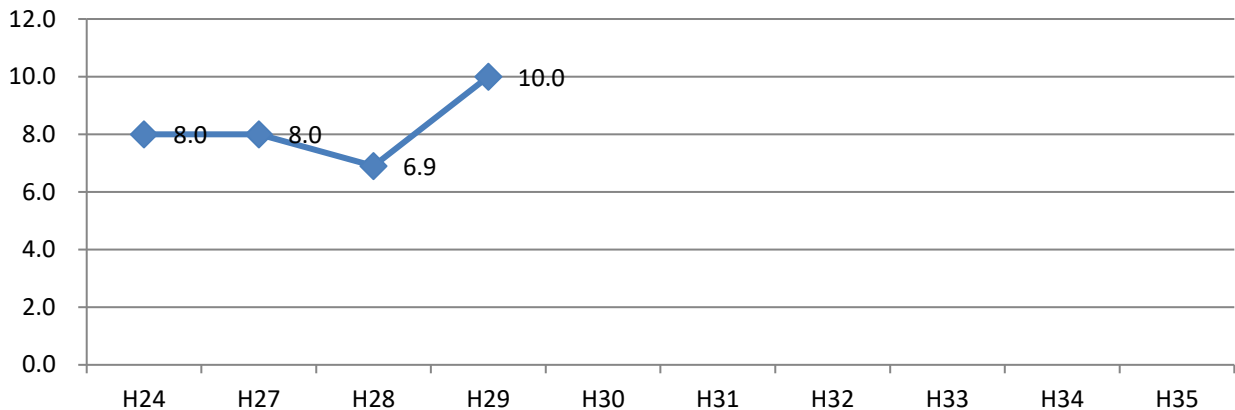
事業系ごみの総排出量は年々減少傾向にあったが、H29は31.63t増加した。これは、H28の課税事業所数が約2,750事業所であったのに対し、H29の課税事業所数は約2,840事業所に増加したため、事業系ごみの総排出量も増加したものと考えられる。

### 目指す方向性



減らす

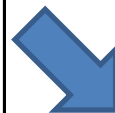
### 成果指標21 プラスチック製容器包装の不適合物(%)



#### 成果指標の分析

平成28年度より、3.1%の増となっているが、これはごみ指定袋等の不適合物の除去を強化したためである。  
 ごみ指定袋の除去は継続して行う必要があるため、ごみ指定袋分の不適合物混合率は、今後も一定割合で排出されるものである。

#### 目指す方向性



減らす

#### 【主な事業】

- ・ 3R活動啓発事業（リサイクルフェア開催事業）  
 ごみの減量に向けた市民意識の向上と行動につなげるため、リサイクルフェアを実施した
  - ・ 開催期間 29年5月26日～28日
  - ・ 場所 市役所地下大会議室、第1駐車場
  - ・ 来場者数 約2,000人
  - ・ 内容 ごみの中の宝物展、フリーマーケット、啓発展示等
- ・ 資源再商品化事業（資源集団回収事業）  
 ごみの減量と再資源化を推進するため、町内会・自治会・子供会等が行った資源の集団回収を支援した
  - ・ 団体数 119団体
  - ・ 回収品目 紙類、缶類、びん類、布類
  - ・ 回収量 3,004 t

**【推進委員会の意見】**

全体として、ごみの減量はいい方向に向かっていると思われる。  
過剰包装や若者や男性など周知の方法を検討する必要がある。

**【総合的な評価】**

市民一人当たりのごみの総量及び家庭系ごみの総排出量は順調に推移しているため、今後もアプリ等を使い、ごみ減量及びリサイクルに関心が低いとされる若者世代に対して啓発活動を行っていく。一方で事業系ごみの総排出量が増加したため、積極的に民間の資源化業者等の紹介をしていく。